

# 2023年2月期 第2四半期決算説明資料

2022年10月14日

株式会社ヨシムラ・フード・ホールディングス（証券コード：2884）

1. 2023年2月期 2Q決算ハイライト
2. 2023年2月期 2Q決算詳細
3. トピックス
4. Appendix

# 1. 2023年2月期 2Q決算ハイライト

# 2023年2月期 2Q決算サマリ

## 概要

### 売上高

- ✓ 売上高は**163.4億円**となり、前年同期比**110.5%**となった。
- ✓ 海外事業はコロナ規制緩和により大幅に回復傾向。国内事業はスーパー量販店向けは価格改定等の影響で苦戦、産業給食向けは回復、十二堂のグループ化により増収。

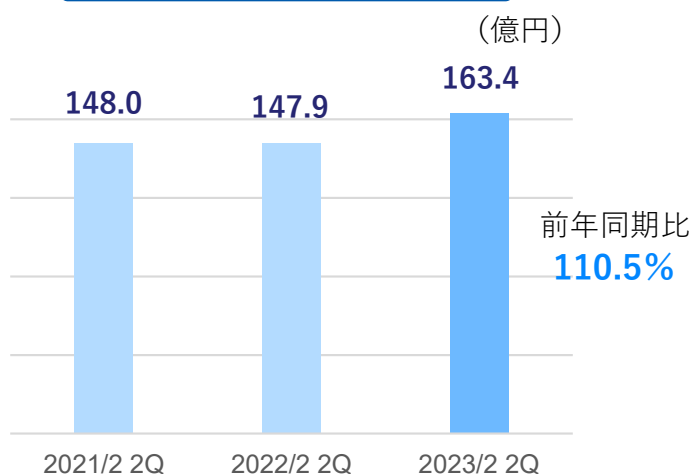
### 営業利益

- ✓ 営業利益は**1.9億円**となり、前年同期比**45.2%**となった。
- ✓ 国内事業は、原材料価格、エネルギー価格高騰の影響で一部企業が苦戦し、海外事業も同様の理由で減益が継続。当期はM&A取得関連費用および検討費用として79百万円を計上。

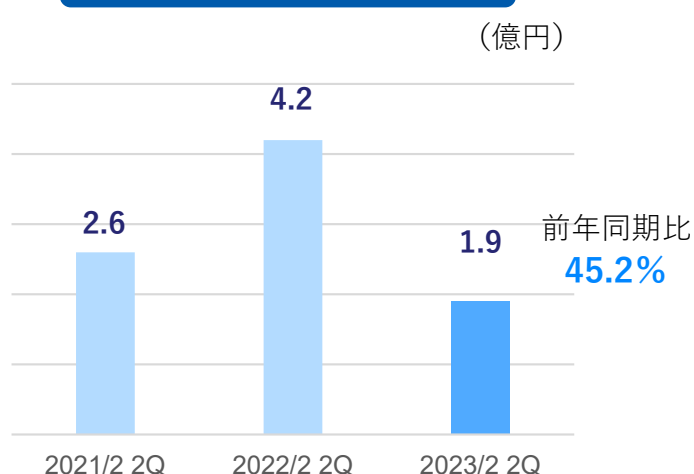
### 経常利益

- ✓ 経常利益は**7.4億円**となり、前年同期比**128.1%**となった。
- ✓ 外国為替相場の変動の影響により為替差益が357百万円増加。

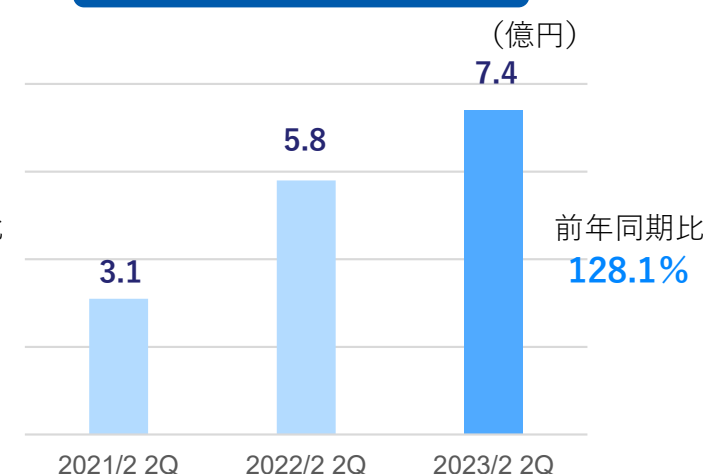
### 売上高



### 営業利益



### 経常利益

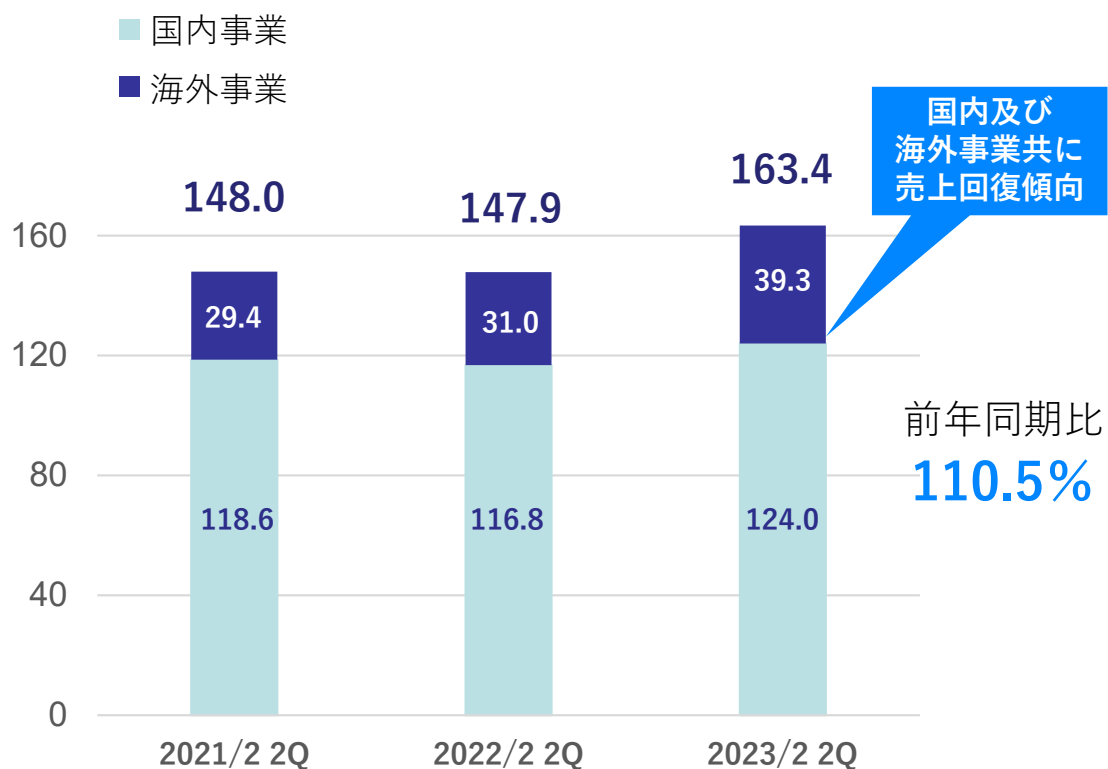


# 売上高の推移

売上高は**163.4億円**となり、前年同期比**110.5%**となった。

## 売上高推移

(単位：億円)



## 概要

### 国内

- 国内販売事業は、産業給食事業者向けの売上が回復、生協等宅配関係の売上は引き続き好調に推移。
- 国内製造事業は、価格改定等の影響によりスーパー量販店向けの売上が減少したものの、業務用向けが回復、十二堂のグループ化により増収。

### 海外

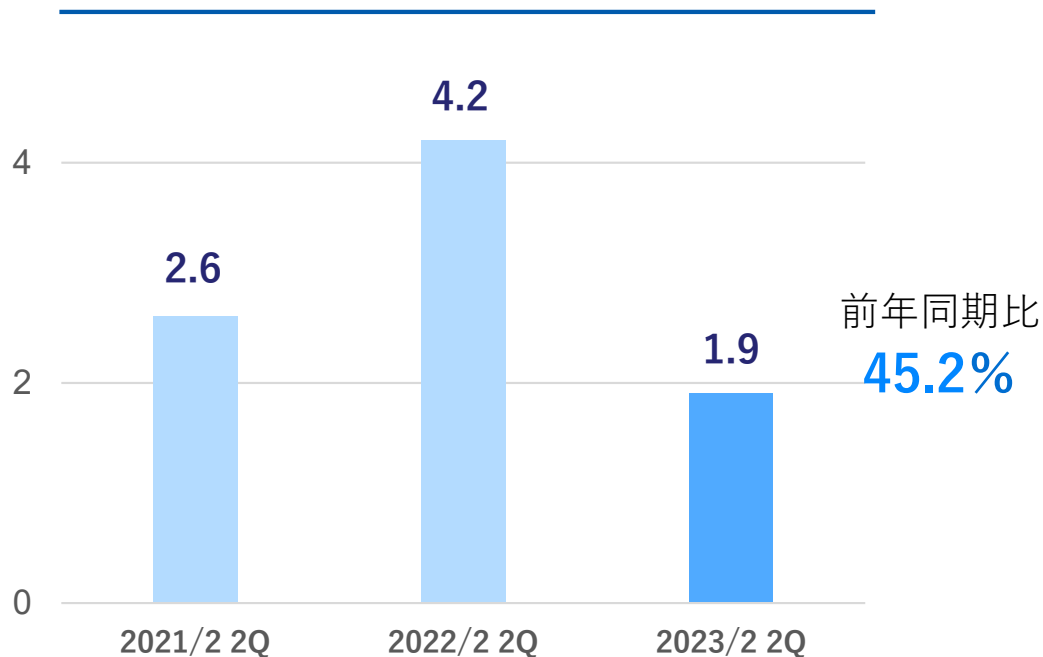
- 海外販売事業は、コロナ規制緩和に伴いホテル、飲食店、スーパーへの売上が増加し増収。
- 海外製造事業は、ホテル向け、飲食店向けの売上が回復したことで増収。

# 営業利益の推移

営業利益は**1.9億円**となり、前年同期比**45.2%**となった。

## 営業利益推移

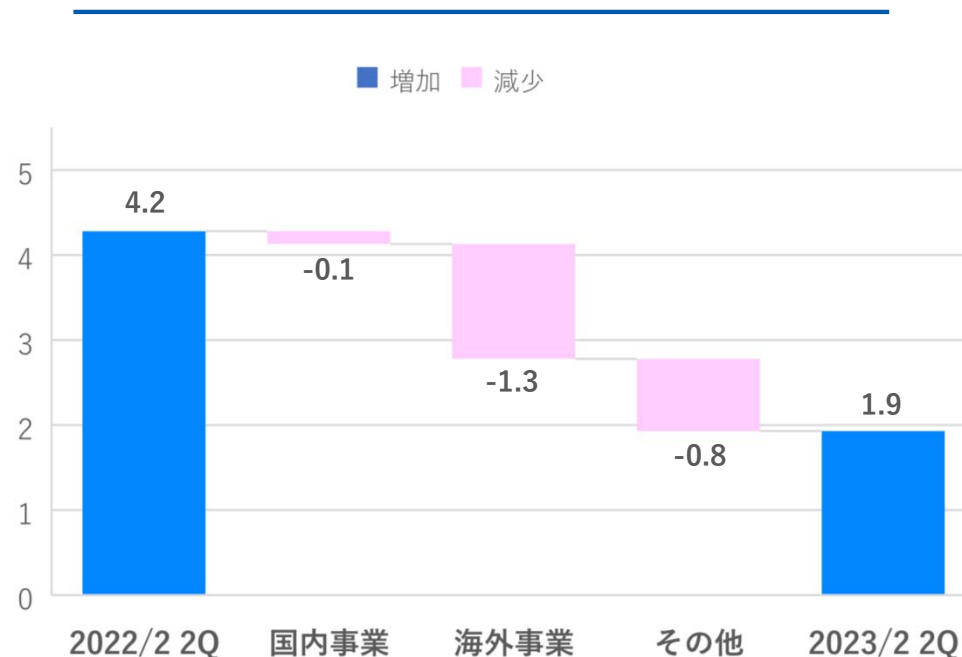
(単位：億円)



- 国内事業は、一部企業が原材料価格の高騰により苦戦。今期グループ化した十二堂が貢献し若干の減益。
- 海外事業は、原材料価格や物流費等の高騰の影響を受け減益。1Qに比べ減益額は減少。

## 営業利益増減分析

(単位：億円)

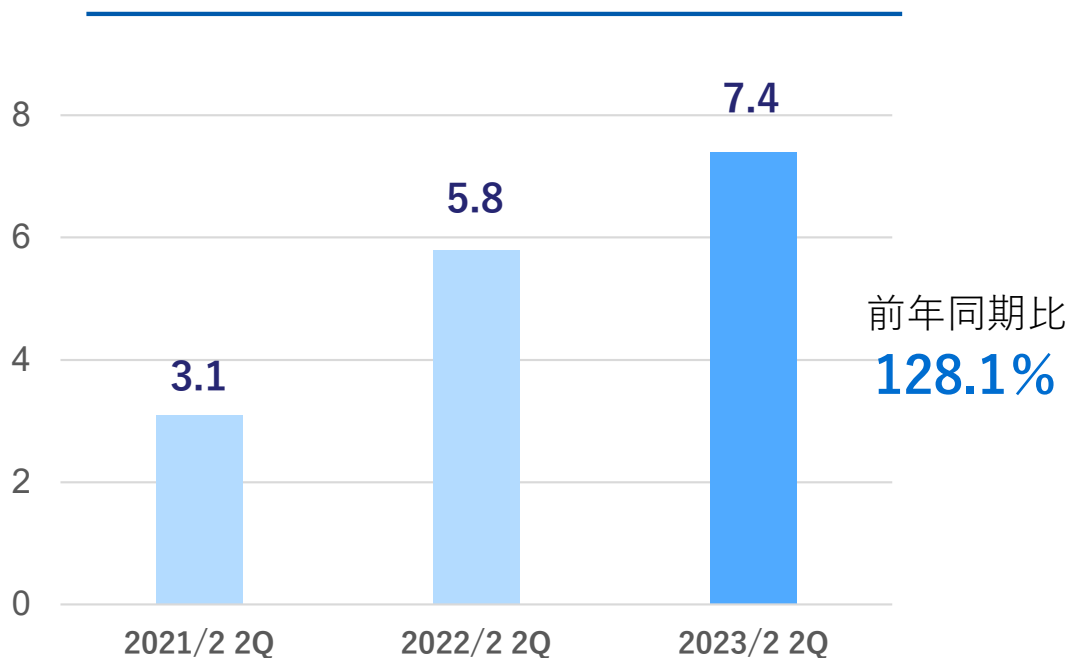


- 国内事業は前期並み、海外事業が減益となる。
- M&A取得関連費用及び検討費用が79百万円増加したことで、「その他」費用が増加し、減益となる。

# 経常利益の推移

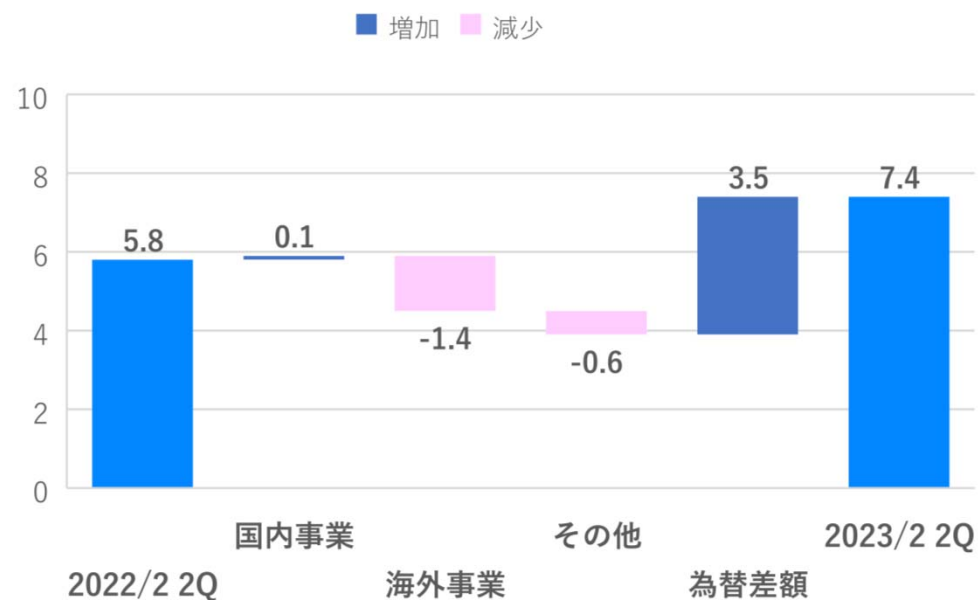
経常利益は**7.4億円**となり、前年同期比**128.1%**となった。

## 経常利益推移 (単位：億円)



- 外国為替相場の変動の影響により為替差益が357百万円増加。

## 経常利益増減分析 (単位：億円)

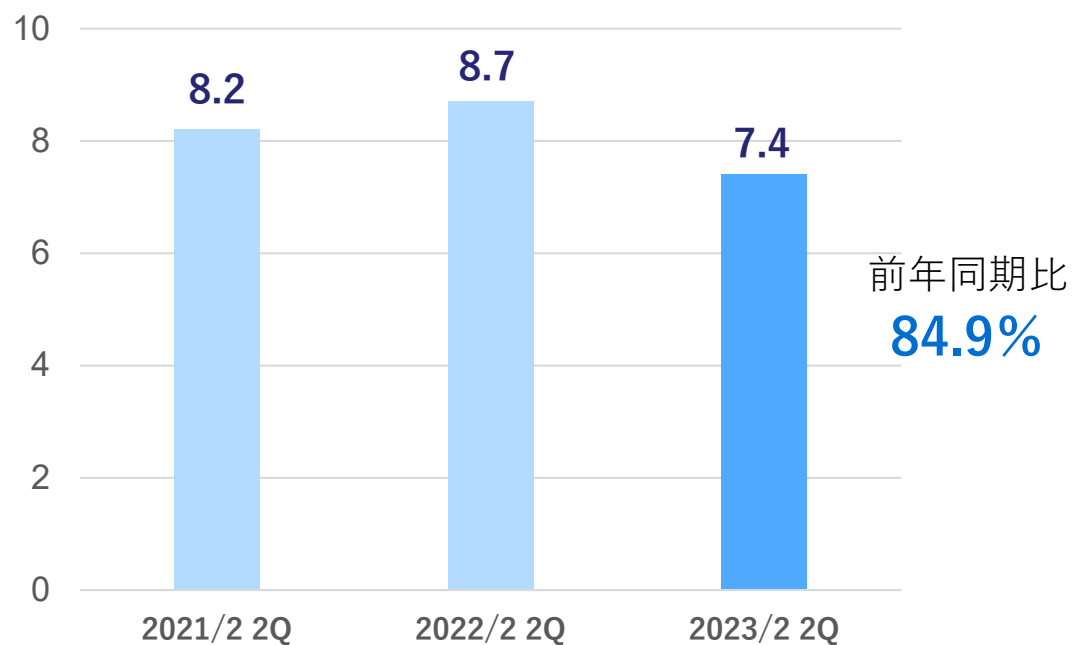


<為替差額明細>	
2022/2 2Q	+89M
2023/2 2Q	+446M
増減額	357M

# EBITDAの推移

EBITDAは**7.4億円**となり、前年同期比**84.9%**となった。

## EBITDA推移 (単位：億円)



## 概要

- EBITDAは、海外事業が減益となったことの影響を受け、前年同期比は減少。

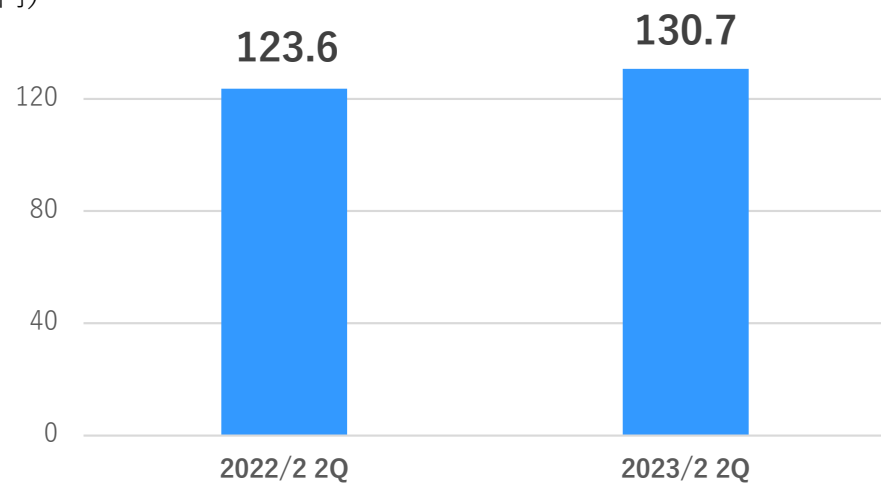
(注) EBITDAは、営業利益に償却費（減価償却、のれん）、コロナ関連補助金収入およびM&Aにかかる取得費用を加算して算出



# 国内・海外別実績

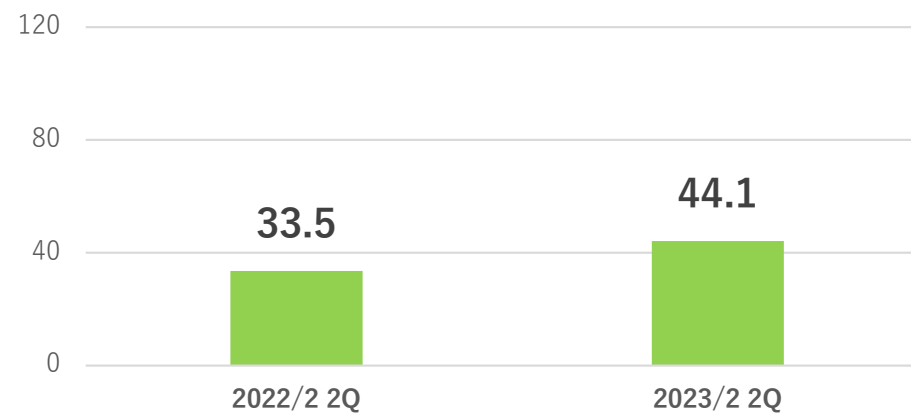
## 国内売上

(億円)



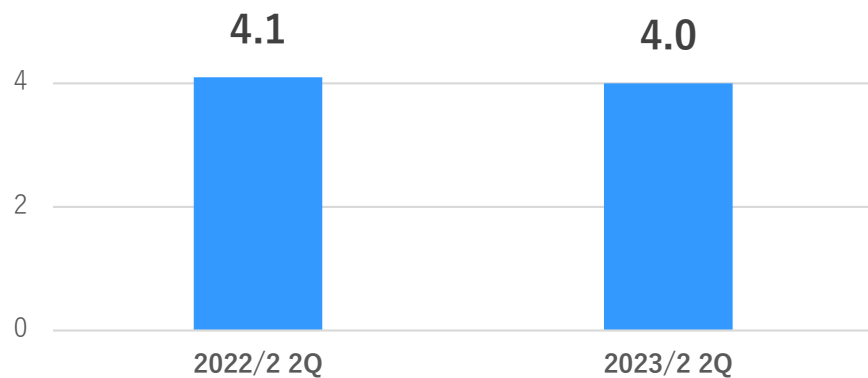
## 海外売上

(億円)



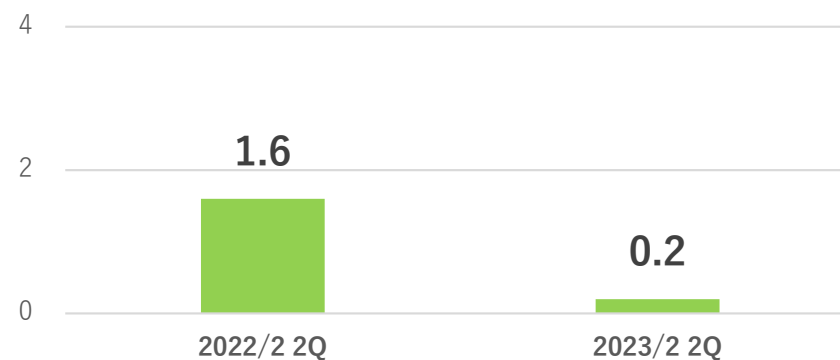
## 国内営業利益

(億円)



## 海外営業利益

(億円)



(注) 売上高は、セグメント間の取引が含まれています。営業利益は、のれん償却額等を含めていません。

## 2. 2023年2月期 2Q決算詳細

# 損益計算書

前年同期比は、**売上高110.5%**、**営業利益45.2%**、**経常利益128.1%**、**当期純利益120.1%**、**EBITDA84.9%**となる。

	2022年2月期 2Q		2023年2月期 2Q		前年 同期比	(単位：百万円)
		構成比		構成比		
売上高	14,790	100.0%	16,349	100.0%	110.5%	<b>【売上高】</b> ✓ 海外事業はコロナ規制緩和で回復傾向。国内事業はスーパー量販店向けは価格改定等の影響で苦戦、産業給食向けは回復、十二堂のグループ化で増収
売上総利益	3,310	20.3%	3,216	19.7%	97.2%	
販管費	2,882	17.6%	3,023	18.5%	104.9%	<b>【売上総利益】</b> ✓ 原材料価格高騰等の影響により売上総利益率が低下
営業利益	428	2.6%	193	1.2%	45.2%	
経常利益	583	3.6%	747	4.6%	128.1%	<b>【営業利益】</b> ✓ 国内事業は、原材料価格高騰等により苦戦するも十二堂のグループ化等で若干の減益 ✓ 海外事業は、原材料価格や物流費等の高騰の影響を受け減益
親会社株主に帰属する当期純利益	338	2.1%	406	2.5%	120.1%	
EBITDA	873	5.3%	742	4.5%	84.9%	<b>【経常利益】</b> ✓ 為替差益が357百万円増加

(注) EBITDAは、営業利益に償却費（減価償却、のれん）、コロナ関連補助金収入およびM&Aにかかる取得費用を加算して算出

# 売上高の状況（セグメント別）

海外事業はコロナ規制緩和により回復傾向。国内事業はスーパー量販店向けは価格改定等の影響で苦戦、産業給食向けは回復、十二堂のグループ化により増収

	2022年2月期 2Q	2023年2月期 2Q	前年 同期比	(単位：百万円)
<b>製造事業セグメント</b>	<b>11,064</b>	<b>12,098</b>	<b>109.3%</b>	
楽陽食品	2,447	2,164	88.5%	(製造事業セグメント) ✓ 楽陽食品、エスケーフーズは、生産性向上のため商品アイテム数を削減したこと、原材料価格高騰に伴う値上げを実施したことで減収 ✓ Pacific Sorby、NKRは、コロナによる規制の緩和により徐々に回復 ✓ 新たにグループ化した十二堂の売上405百万円が増加
エスケーフーズ	1,460	1,352	92.6%	
NKR	948	1,317	138.9%	
純和食品	1,366	1,169	85.6%	
オーブン	1,091	1,168	107.1%	
Pacific Sorby	646	1,074	166.4%	
JSTT	694	698	100.5%	
森養魚場	445	595	133.7%	
その他（11社）	2,411	2,999	124.3%	
<b>販売事業セグメント</b>	<b>3,725</b>	<b>4,143</b>	<b>111.2%</b>	
ヨシムラ・フード	2,200	2,566	116.6%	(販売事業セグメント) ✓ ヨシムラ・フードは産業給食業者への売上が回復 ✓ Sin Hinは、旧正月商戦での苦戦の影響が残るものの、ホテル、飲食店向けの売上が回復
Sin Hin	1,018	1,131	111.1%	
ジョイ・ダイニング・P	669	721	107.9%	
<b>その他事業セグメント</b>	<b>-</b>	<b>107</b>	<b>-</b>	
<b>合 計</b>	<b>14,790</b>	<b>16,349</b>	<b>110.5%</b>	

(注) 個別の業績につきましては、セグメント間の取引が含まれているため、各個別業績の合計とセグメント別の数値は一致いたしません。

# 貸借対照表

当期純利益の増加、及び為替相場の変動による為替換算調整勘定等が増加したことで、自己資本比率は26.8%（前期末比+0.2%）となる。

	2022年2月期 4Q	2023年2月期 2Q	前期末増減額	(単位：百万円)
<b>流動資産</b>	<b>12,545</b>	<b>14,877</b>	<b>+2,331</b>	
現金及び預金	3,293	3,881	+588	【資産合計及び負債合計】 ✓ 運転資金及びM&A資金確保のため資金調達を実施したことで現預金及び借入金が増加
売掛金	4,347	4,943	+596	
たな卸資産	4,503	5,229	+725	
その他流動資産	401	822	+421	
<b>固定資産</b>	<b>11,197</b>	<b>12,053</b>	<b>+855</b>	
有形固定資産	5,672	6,148	+475	【純資産】 ✓ 利益剰余金の増加、為替相場の変動により為替換算調整勘定及び非支配株主持分が増加
無形固定資産	4,160	4,569	+410	
投資その他の資産	1,365	1,335	△30	
<b>資産合計</b>	<b>23,743</b>	<b>26,930</b>	<b>+3,187</b>	
<b>流動負債</b>	<b>6,367</b>	<b>7,612</b>	<b>+1,244</b>	
買掛金	2,338	2,658	+319	
短期借入金	738	666	△71	
1年以内返済予定長借	1,469	2,215	+745	
その他流動負債	1,821	2,071	+250	
<b>固定負債</b>	<b>9,060</b>	<b>9,824</b>	<b>+763</b>	
長期借入金	8,354	9,002	+647	
その他固定負債	706	821	+115	
<b>負債合計</b>	<b>15,428</b>	<b>17,436</b>	<b>+2,007</b>	
純資産	8,314	9,494	+1,179	
<b>負債・純資産合計</b>	<b>23,743</b>	<b>26,930</b>	<b>+3,187</b>	

## 2023年2月期業績見通しに対する外部要因

原材料価格等の高騰に対応するため、国内・海外共に販売先への価格改定を実施。為替相場の変動が大きいいため、引き続き為替差損益が発生する可能性がある。

- 原材料価格高騰、物流費用の増加に対応するため価格改定・規格改定を継続して実施

グローバルなサプライチェーンの混乱や天候不順、エネルギーコストの上昇により、食品原材料価格が世界中で高騰している。グループ各社では価格改定（値上げ）及び規格改定（内容量変更）を順次実施しているが、為替相場の変動により円安がさらに進行する中、さらなる対応が必要な状況。同時に、より一層の製造合理化、コスト削減を実施することで、利益率の維持・向上を図る。

- 為替相場変動に伴う業績の変動

為替相場が大きく変動しており、主に当社からシンガポール子会社に対する貸付金等の評価額が変動し、為替差益、もしくは為替差損が発生する可能性がある。当社はシンガポールにおける事業を今後も継続するため、為替予約等によるヘッジは行わない方針。

# 3. トピックス

# 新規M&A（細川食品）

会社名	株式会社細川食品
本社所在地	香川県三豊市豊中町本山乙712番地8
代表者	山田 佳生
設立年月日	設立 1963年
事業内容	青果物販売、冷凍食品製造
従業員数	70名（2022年8月末時点）
URL	<a href="http://www.hososyo.co.jp/">http://www.hososyo.co.jp/</a>

## （当社が譲り受けた理由）

- 高い製造技術力を保有することから、大手食品メーカーのPB商品の製造を受託しており、今後も安定的な業績が期待できるため
- 販売先からの生産依頼を受けきれない現状から、生産管理体制を強化することで売上を増加し、業績を向上できる可能性があるため
- 隣県に位置するオーブンは、既に同社との取引があり、共同での商品開発や仕入先を共有することで、両社の業績を向上できる可能性があるため



国産野菜のかき揚げ

テーブルマークPB：冷凍赤飯



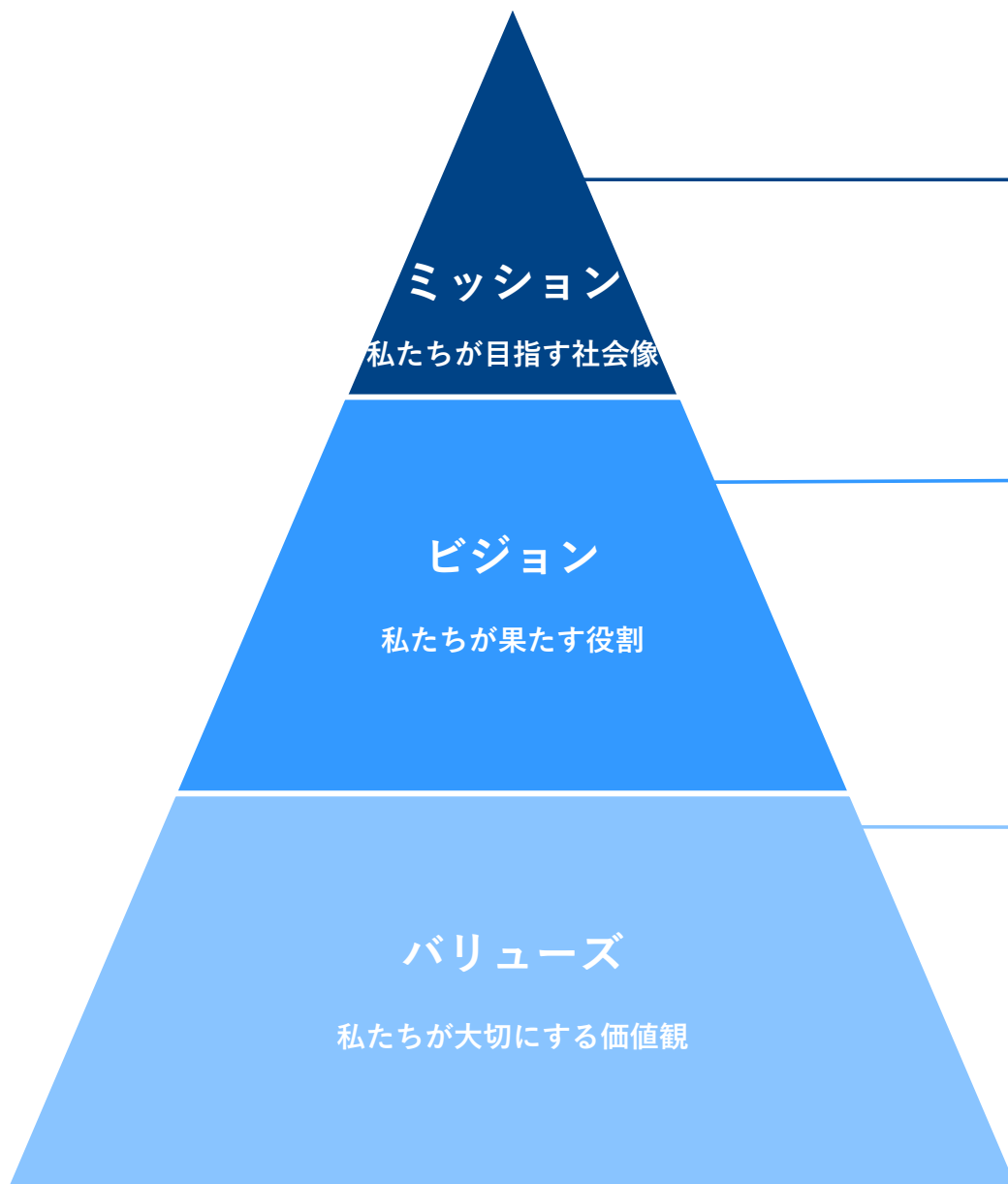
## （特徴）

- かき揚げ、チヂミ、赤飯等の冷凍食品製造や野菜加工、また野菜原体の販売等を行っている。かき揚げについては油調かき揚げラインの他に、業界では数少ない蒸しかき揚げ製造ラインを保有している。
- 新鮮な国産野菜を安定的に調達できる仕入ネットワークを保有し、高品質な国産野菜を使用したかき揚げを製造することが可能
- 長年にわたり培われてきた高度な製造技術により、安定した形状のかき揚げを製造することが可能



# 4. Appendix

# 当社の理念体系



## ミッション

いつまでも、この“おいしい”を楽しめる社会へ  
～消費者が多様な食文化を享受できる豊かさの実現～

- 私たちは、人々が、多種多様な選択肢から自分の嗜好に合わせて自由に選択でき、それが尊重される社会こそ、豊かで幸せであると考えます。
- 私たちは、世界中の消費者が、多種多様で高品質な“おいしい”を自由に選択し、それを楽しめる豊かな社会を目指してまいります。

## ビジョン

地域の“おいしい”を守り、育て、世界へ

- 私たちは、「いつまでもこの“おいしい”を楽しめる社会」を実現するため、日本および世界で大切にされてきた“おいしい”を見つけ、守り、育て、世界へと届けてまいります。
- そのために、私たち独自の“おいしい”を見つける目利き力、“おいしい”を守る事業基盤、“おいしい”を育てる支援機能、“おいしい”を世界へと届ける販売網を構築してまいります。
- その結果として、世界の食文化と多様化、地域社会の活性化を推進するグローバルプロデューサーとなります。

## バリューズ

「あなた“らしさ”を大切にします」

- 私たちは、私たちに関わる全ての方のあなた“らしさ”を大切にします。
- 私たちは、私たちのグループで働く社員の“個性”、“新しい発想”、“チャレンジ精神”を大切にします。
- 私たちは、私たちのグループ企業が持つ“歴史”、“文化”、“社員”、“取引先”、“地域社会”を大切にします。
- 私たちは、私たちのグループ企業が持つ“強み”を伸ばし、“弱み”を補い合い、共に成長してまいります。
- 私たちは、私たちに関わる全ての方の“らしさ”を大切にしたら結果、多様な選択肢のある豊かな社会づくりに貢献します。

# 会社概要

社 名 株式会社ヨシムラ・フード・ホールディングス

設 立 2008年3月18日

代 表 者 代表取締役CEO 吉村 元久

本 社 東京都千代田区内幸町2-2-2  
富国生命ビル18階

資 本 金 1,107百万円 (2022年2月末現在)

主 要 株 主 吉村元久 37% (株式会社MY保有分含む)、  
国分グループ本社(株) 5.0%、日本たばこ産業(株)  
4.4% 他

連 結 業 績 売 上 高：29,283百万円 (2022年2月期)

従 業 員 数 連 結：1,167人  
単 体： 25人 (ともに、2022年2月末現在)

事 業 内 容 食品関連会社の株式を保有する持ち株会社。  
子会社において各種食品の製造・販売。

グ ル ー プ 会 社 主要連結子会社：24社

市 場 東証プライム (2884)

## 代表取締役CEO 吉村 元久 プロフィール

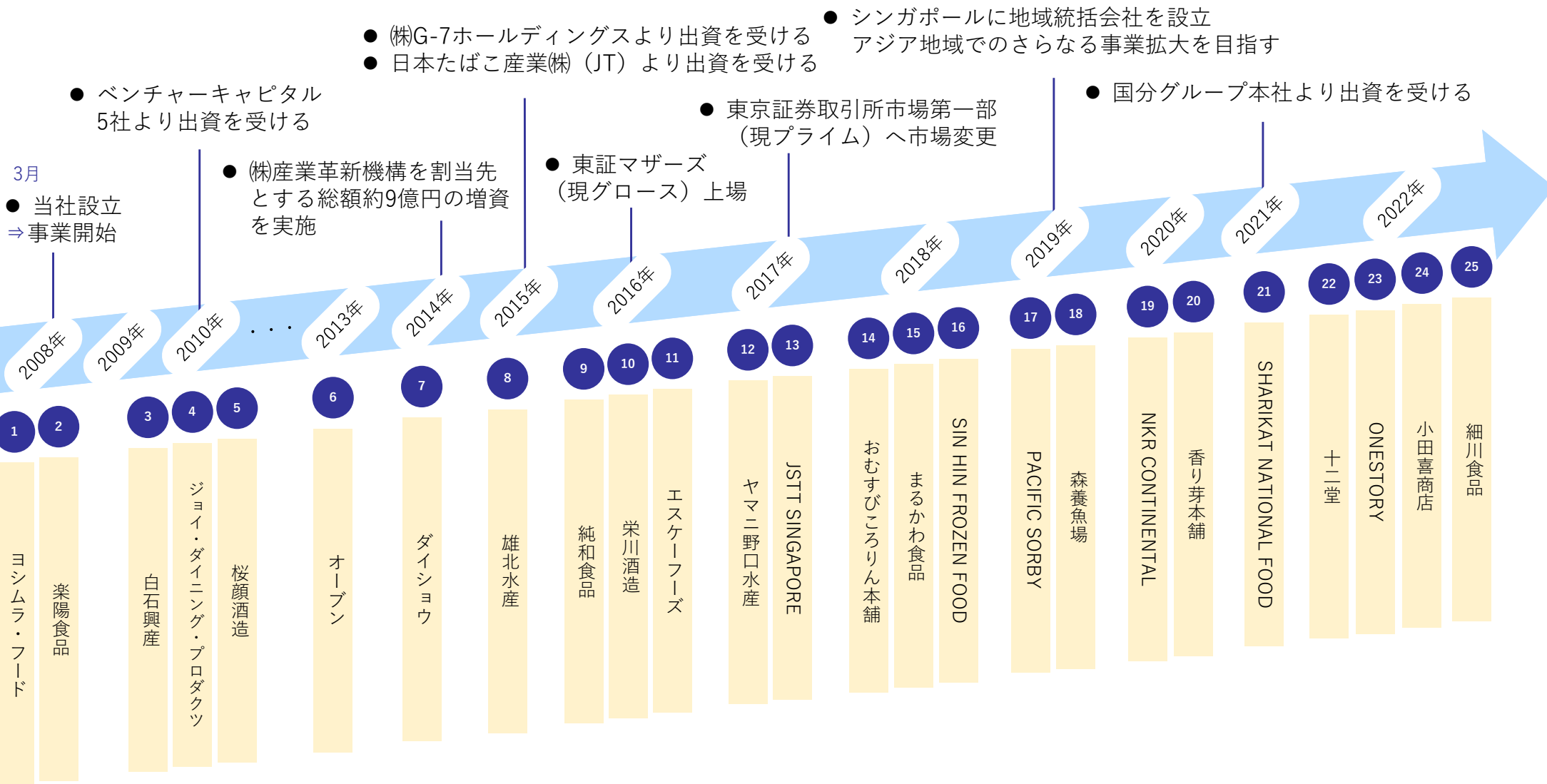
出身地 北海道函館市

最終学歴 1988年3月 一橋大学商学部卒業 金融論専攻  
1994年6月 ペンシルバニア大学大学院ウォートン校卒業  
ファイナンス専攻 (MBA)

職 歴 1988年4月 大和証券株式会社入社  
事業法人部 上場企業の資金調達業務  
1996年7月 同社 資産証券部 課長代理  
資産の証券化業務  
1997年10月 モルガン・スタンレー証券株式会社入社  
事業法人部 エグゼクティブディレクター  
コーポレートファイナンス業務  
2008年3月 当社 代表取締役 (現任)

# 当社の歩み

当社の歩みは、中小食品企業のM&Aと当社ビジネスモデルへの共感企業からの出資の歴史



# 中小企業支援プラットフォーム

グループ会社を**機能別に統括**することで、**相互補完・相互成長**を図る仕組み

統括

ヨシムラ・フード・ホールディングス

セールス・マーケティング

販売戦略

商品開発

商品戦略・新商品

生産管理

効率化

購買・物流

コストダウン

品質管理

安心安全

経営管理

経営効率化

海外販路

販路拡大・売上増加

楽陽食品

オーブン

白石興産

桜顔酒造

ダイショウ

雄北水産

純和食品

エスケーフーズ

ヤマニ野口水産

JSTT SINGAPORE

おむすびころりん本舗

まるかわ食品

PACIFIC SORBY

森養魚場

NKR CONTINENTAL

香り芽本舗

十二堂

小田喜商店

細川食品

SIN HIN FROZEN FOOD

ジョイ・ダイニング  
・プロダクツ

ヨシムラ・フード

ONESTORY

グループ会社の  
有機的な  
相互補完関係

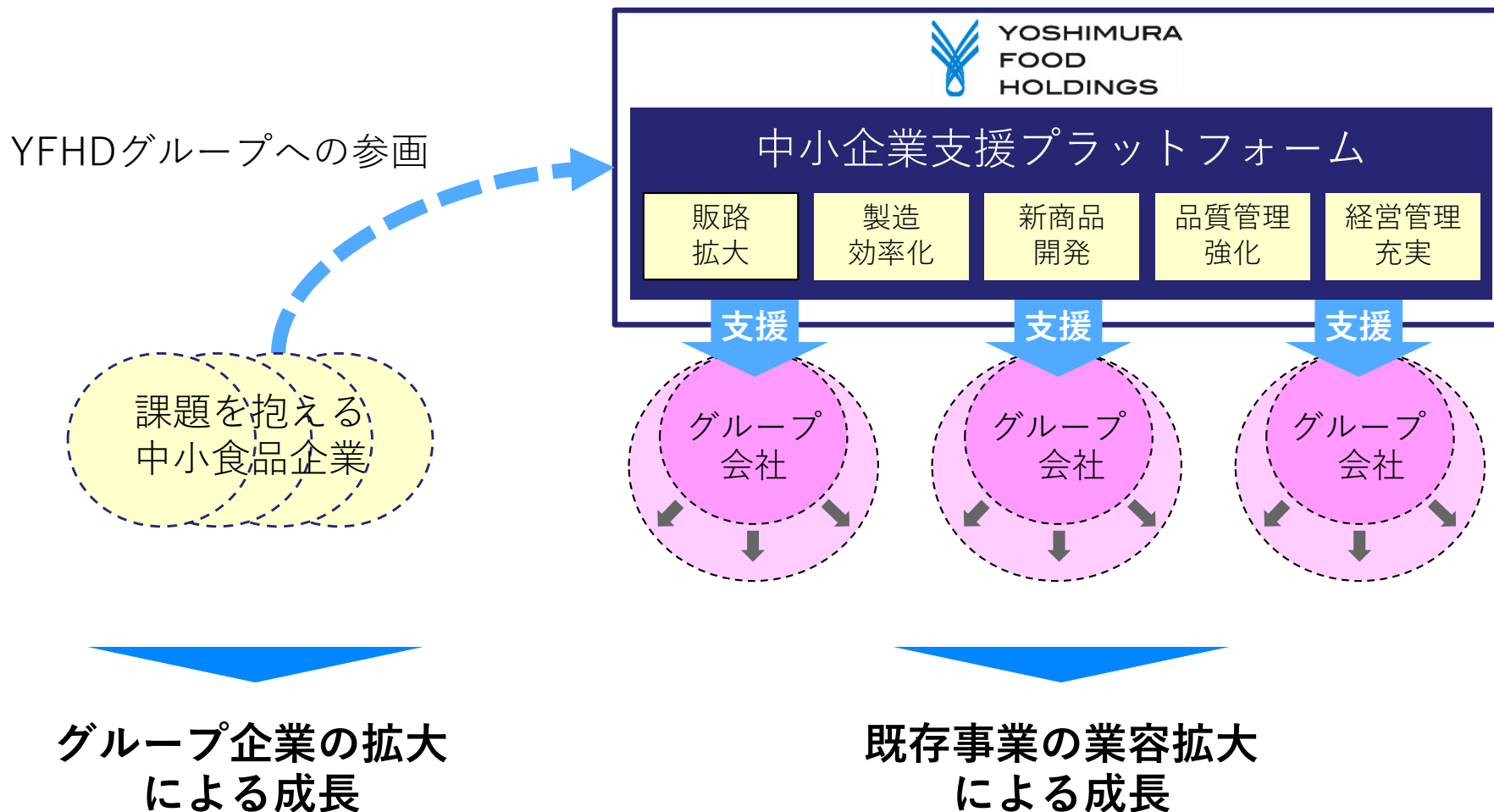
会社の壁を越えて  
機能ごとに横断的組織  
を構築

各機能別の統括責任者が、  
グループを横断的に統括

各社の持つ強みを  
グループ全体で共有し  
弱みを補い合う

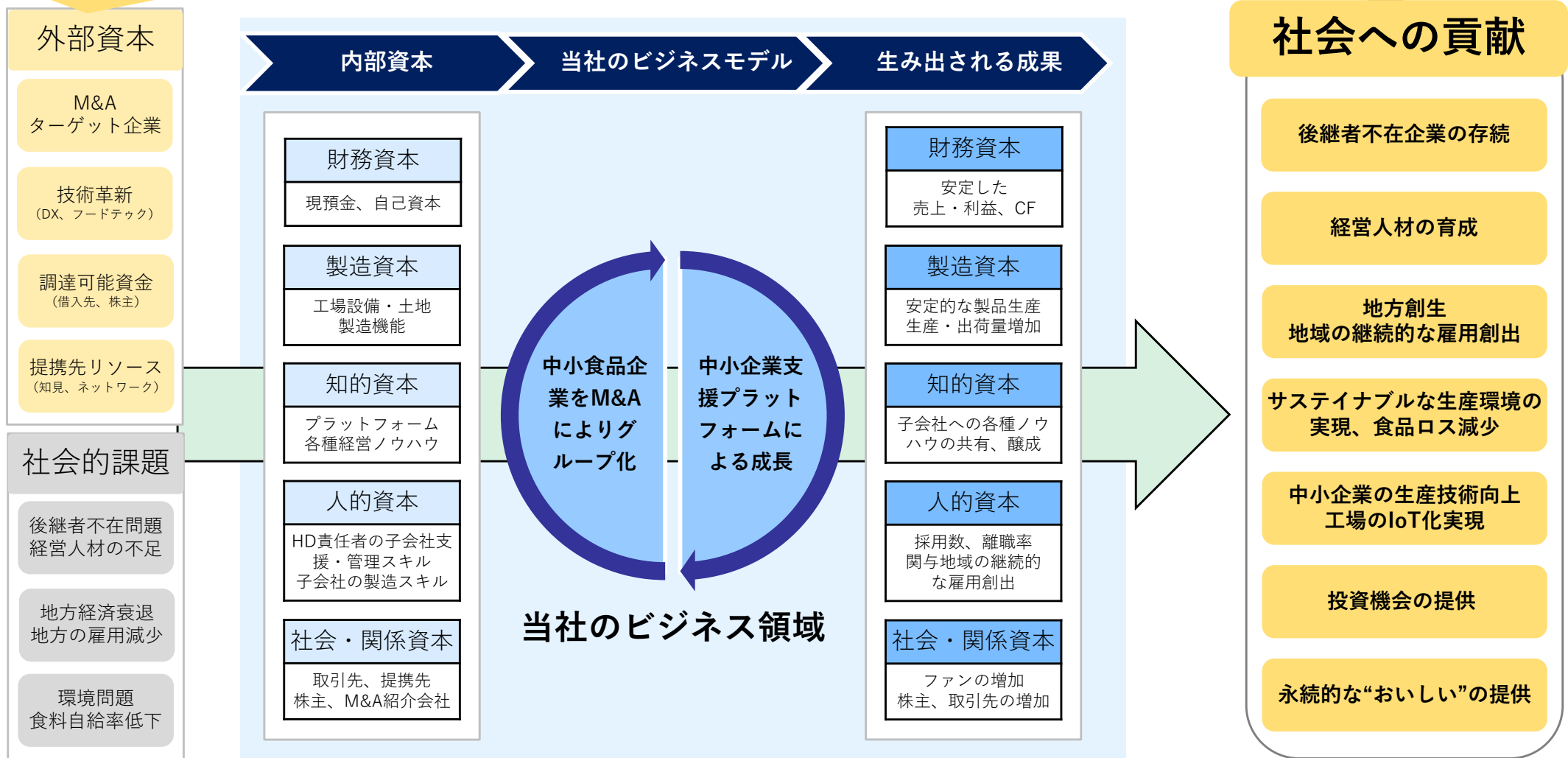
# 当社のビジネスモデルについて

食品業界におけるユニークなビジネスモデルにより、当社は**2つの成長エンジン**を有する



# ESG経営による持続的成長

社会資本を活用してビジネスモデルを回すことで企業価値を創造しステークホルダーから当社グループへの共感を高めると同時に、社会に対しても地域社会への貢献など価値の還元を継続することで持続可能なESG経営を推進いたします。



# 当社のESGに対する取り組み状況

## Environment (環境)

### ■ 環境に配慮した持続可能な製品製造

- 環境変化に依存しない、もしくは、環境に負荷をかけない持続可能な製品製造技術・ノウハウを保有
- 限られた食料資源の有効活用や効率的な生産を実施
  - 森養魚場：気候変動、河川の水質汚染等の影響により天然鮎が減少する中、独自技術にて養殖鮎を安定供給
  - ヤマニ野口水産：端材やサイズ不揃い品を用いた製品開発により食品ロス削減へ貢献
  - おむすびころりん本舗：廃棄予定原材料をフリーズドライ加工し再度製品化することで食品ロス削減へ貢献 ほか

### ■ 製造工程にて発生した産業廃棄物の再利用

- グループ各社：製造工程にて発生した廃棄物を地域の畜産業者などに提供することによる食品廃棄物の有効活用

### ■ 消費電力削減

- グループ各社：工場の使用電力削減を目的とした、LED化、高効率ボイラーの採用などを順次実施

## Social (社会)

### ■ 地域社会における「食」分野での貢献

- 地域の消費者に高いニーズがあり、こだわりの原材料・レシピによる製品開発を実施
  - ダイショウ：保存料、着色料不使用。なめらかな食感と飽きのこない味
  - オーブン：広島の清浄海域、条件付清浄海域に限定したカキの仕入れ
  - 香り芽本舗：地元中国地方のふりかけ市場にてトップクラスのシェア
- 地域に根差した社会貢献活動の推進
  - おむすびころりん本舗：学生らの支援として昼食の無償支援プロジェクトに参画、地域の特産品を使った製品を提供
  - 森養魚場・純和食品：地元小学生の社会見学の場として養殖場を開放、プレゼントとしてゼリーを提供

### ■ 地域に強力なファンを抱える企業を引き受けることにより、事業の存続に貢献

- まるかわ食品：継承者不在、地元ファンからの強い要望による事業承継

### ■ 従業員の多様性

- グループ各社：女性の活躍の場を整備、障害者、外国人の登用など各種取り組みを実施

## Governance (ガバナンス)

### ■ 経営リソースのサポート

- グループ会社の資金調達や次世代経営者の育成により、グループ会社経営を支援
  - グループ各社：資金調達の支援
  - グループ各社：人材による支援

### ■ 中小企業支援プラットフォームによる支援

- グループ会社の自律性を担保しつつ状況に合わせた事業計画立案や進捗管理への関与
- 機能別の統括部署を設置し、グループとして事業支援や各種進捗管理などを実施
  - 香り芽本舗：100周年を機としたリブランディングおよび新商品開発支援
  - グループ各社：ホールディングスサイトリニューアルおよび各社情報発信の積極化



# 当社のESGの具体例

## Environment (環境)

### ■ 環境に配慮した持続可能な製品製造



鮭とばの端材を有効活用した商品化  
(ヤマニ野口水産)



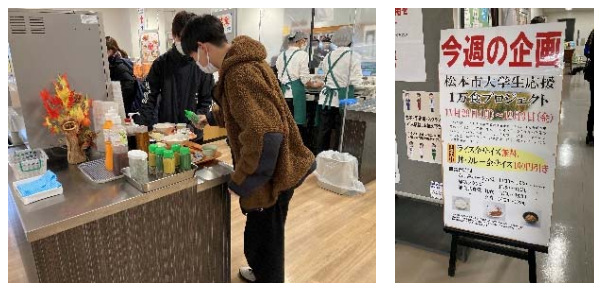
廃棄予定原材料をフリーズドライ化  
食品ロス削減への貢献  
(おむすびころりん本舗)

### ■ 製造工程にて発生した産業廃棄物の再利用

### ■ 消費電力削減 他

## Social (社会)

### ■ 地域社会における「食」分野での貢献



学生等へ昼食の無償支援プロジェクト参画  
(おむすびころりん本舗)



小学生向け社会見学の場として開放  
プレゼントの提供 (森養魚場・純和食品)

### ■ 中小食品企業の事業存続への貢献 他

## Governance (ガバナンス)

### ■ 中小企業支援プラットフォームによる経営支援



Kaorime

創業100周年を機としたリブランディング支援  
(香り芽本舗)



ホールディングスサイトリニューアル  
およびグループ各社情報発信の積極化

### ■ 経営リソースのサポート

- 資金調達の支援
- 人材による支援 他

# 実践するESG経営の全体像

後継者不在企業を譲り受け、グループ化して活性化する当社の事業は正にESG経営そのものであり、ESG経営をより強化することで持続的な成長を実現いたします。



## いつまでも、この“おいしい”を楽しめる社会へ

～消費者が多様な食文化を享受できる豊かさの実現～

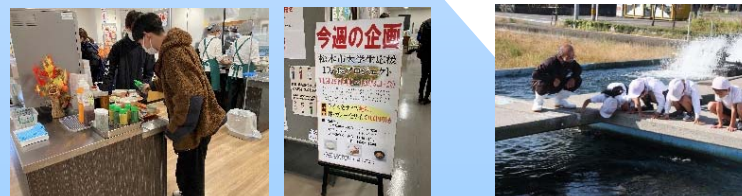
### E (環境) : グループ会社の取り組み

- ・環境に配慮した持続可能な製品製造 他



### S (社会) : グループ全体の取り組み

- ・地域社会における「食」分野での貢献 他



### G (ガバナンス) : ホールディングスによるグループ会社の成長支援

- ・中小企業支援プラットフォームによる経営支援
- ・経営リソースのサポート、経営管理機能の提供 他

# グループ会社の概要

## 販売事業セグメント

### ヨシムラ・フード



#### 業務用惣菜

- 業務用食材の企画・販売が主、自社で物流を持たず、販売先へ直送するビジネスモデルを構築

### ジョイ・ダイニング・プロダクツ



#### 宅配等

- 冷凍食品の企画・販売
- 全国の生活協同組合と直接窓口を保有

### SIN HIN FROZEN FOOD



#### 水産品卸

- シンガポールの水産品卸
- 主力商品は、エビ、ホタテ、カニ等

## 製造事業セグメント

### 楽陽食品



#### シウマイ・餃子

- 国内5か所に工場
- チルドシウマイの生産量は国内トップシェア

### 白石興産



#### 乾 麺

- 創業130年
- 宮城県白石市特産の白石温麺が主力商品

### 桜顔酒造



#### 日本酒

- 昭和48年岩手県の地場の酒蔵10社で設立
- 県内出荷量2位

### オープン



#### 冷凍かきフライ

- 広島産カキを調達する独自ルートを保有
- 鶏なんこつ唐揚等も製造

### ダイショウ



#### ピーナッツバター

- ピーナッツバターのパイオニアで、主力商品は30年以上続くロングセラー

### 雄北水産



#### まぐろ加工品

- 船凍品のまぐろのみを使用した、ねぎとろ、まぐろ切り落としを製造販売

### 純和食品



#### ゼリー

- 高い技術力と彩の国HACCPに認定された高い品質管理能力

### エスケーフーズ



#### とんかつ

- 「彩の国優良ブランド品」に認証された「むさし野とんかつ」が主力商品

### ヤマニ野口水産



#### 水産加工品

- 鮭とばやいくら醤油漬け等北海道の新鮮な原料を使用した水産品を製造



# グループ会社の概要

## 製造事業セグメント

### JSTT SINGAPORE



#### 寿司

- シンガポールの工場にて寿司等を製造し、シンガポールの大手スーパーへ販売

### おむすびころりん本舗



#### フリーズドライ

- フリーズドライ加工、フリーズドライ製品の製造、非常食の販売

### まるかわ食品



#### ぎょうざ

- 静岡において、秘伝のレシピによるぎょうざを製造
- 自社店舗には行列が絶えない人気店

### PACIFIC SORBY



#### 水産加工品

- シンガポールの主要なホテルに対し、自社加工した冷凍ロブスター、カニなどを販売

### 森養魚場



#### 鮎（アユ）

- 岐阜県内3ヵ所において、高品質な鮎を養殖、販売
- 高度な養殖技術を有し、子持ち鮎の安定生産が可能

### NKR CONTINENTAL



#### 業務用厨房機器販売

- 主にシンガポール及びマレーシアの高級ホテル等へ、業務用厨房機器を設計・製造・施工・販売

### 香り芽本舗



#### ふりかけ・スープ

- ソフトタイプのはわかめふりかけ、わかめスープ等の自社商品からOEMまで、高品質かつ多様な商品を製造

### 十二堂



#### ふりかけ

- ソフトふりかけ「梅の実ひじき」等を製造、販売
- 全国に多くのファンを持ち根強い人気を誇る

### 小田喜商店



#### 栗加工品

- 厳選した良質な地元産の「いわまの栗」を使用した高品質な栗製品を製造・販売

## その他セグメント

### 細川食品



#### かき揚げ

- かき揚げ、チヂミ、赤飯等の冷凍食品製造
- 野菜加工、野菜原体の販売

### ONESTORY



#### マーケティング ・コンテンツ開発等

- 地域に眠る「食」や「文化」等を再発掘・再編集し、プレミアムなコンテンツとしてプロデュース

### SHARIKAT NATIONAL FOOD



#### 不動産賃貸・管理

- シンガポールにおいて食品工場兼食品用低温倉庫を所有し不動産賃貸業を行う

## 本資料の取り扱いについて

- 本資料に記載されている業績見通し等の将来情報に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束するものではなく不確実性を含んでおります。また、実際の業績等は、様々な要因により大きく異なる可能性があります。
- 本資料には、監査法人による監査を受けていない管理資料が含まれております。